

アルミ製純度99%の遮熱シート

サーモバリア

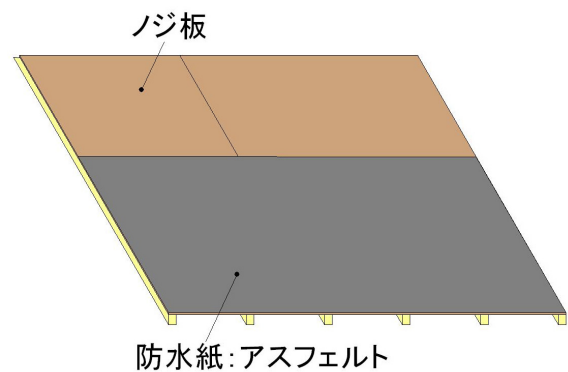
Thermo Barrier

「屋根」施工マニュアル

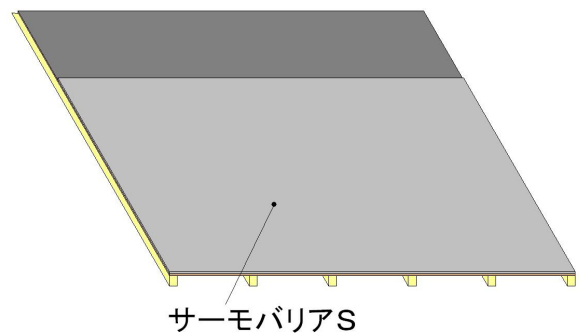
【目的】夏の屋根の熱対策です。太陽により熱せられた屋根材の熱が室内に侵入することを防ぎます。
冬の寒さ対策としても有効です。

瓦葺きの場合

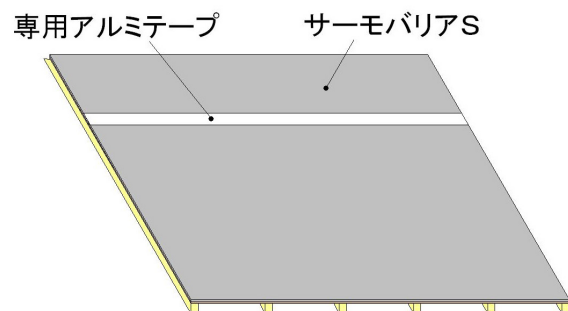
- ①タルキの上にノジ板を張り、ルーフィングを貼ります。
* 通常の施工です。



- ②ルーフィングの上にサーモバリアSを敷きます。
ステーブル(また釘)でサーモバリアSを止めつけます。
* 縦方向にサーモバリアSを敷いてもOKです。
* サーモバリアスリムでもOKです。
注意) 滑りやすいのでご注意ください!



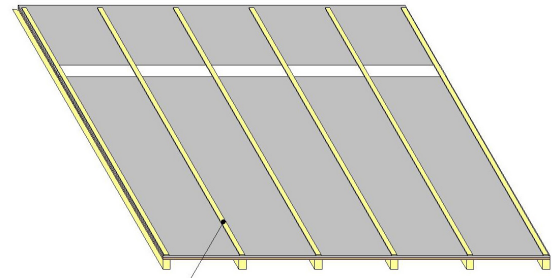
- ③サーモバリアSは重ねずジョイントは突き付けとし、ジョイントを専用アルミテープで張り合わせます。
* サーモバリアスリムの場合は3センチほど重ねます。(専用テープは不要)



④タルキ当りに縦サン木を打ちます。

縦サン木は必ず必要ではありませんが、
横サンにホコリが溜まるのを防ぐために行い
ます。

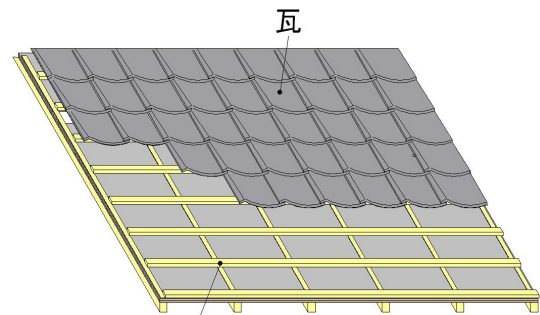
これは、瓦の隙間から浸入した雨水を流すためです。
必ず必要ではありません。



ドウブチ又は10ミリ厚程度の木

⑤瓦用のサン木を横向きに打ち、瓦を葺きます。

瓦用のサン木の厚みが瓦とサーモバリアSの間の
反射空気層の役割をします。

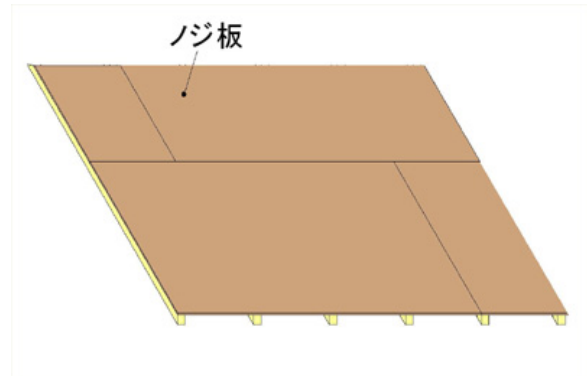


ドウブチ

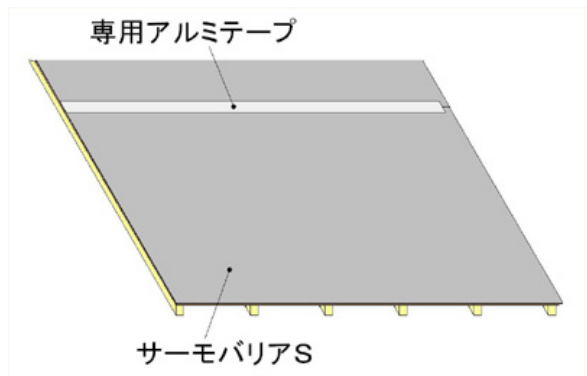
カラーベスト・ガルバリウム鋼板の場合

【二重ノジ工法】

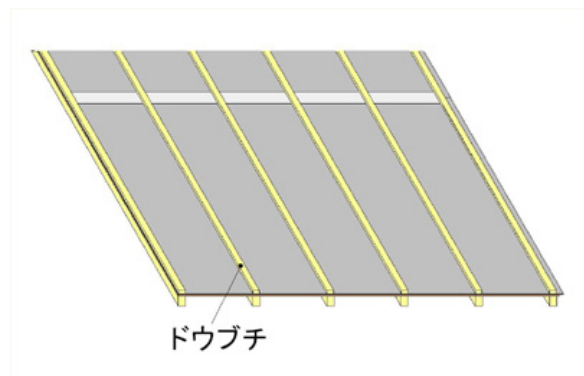
- ① タルキ上に捨て貼りをします。
捨て貼りはサーモバリアの下地及び足場として利用するためです。



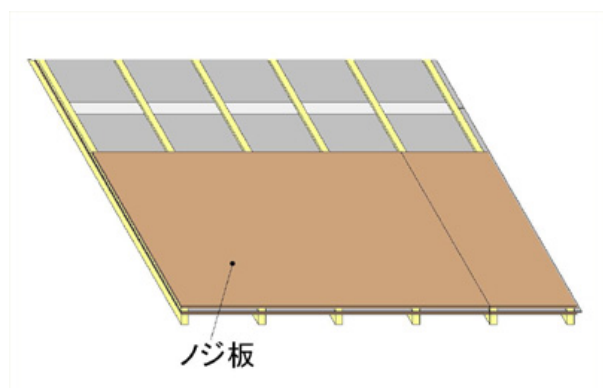
- ②サーモバリアSを張ります。
ステーブル(また釘)でサーモバリアSをタルキに留めつけます。
サーモバリアSのジョイントは重ねずに突付け専用アルミテープで張り合わせます。
* 縦方向にサーモバリアSを敷いてもOKです。
* サーモバリアスリムでもOKです。
* サーモバリアスリムの場合は3センチほど重ねます。(専用テープは不要)
注意) 滑りやすいのでご注意ください!



- ③タルキ当りに反射空気層のためのドウブチを打ち、反射空気層を確保します。



- ④ドウブチの上にノジ板を貼ります。
タルキまで届く釘でしっかりと固定します。

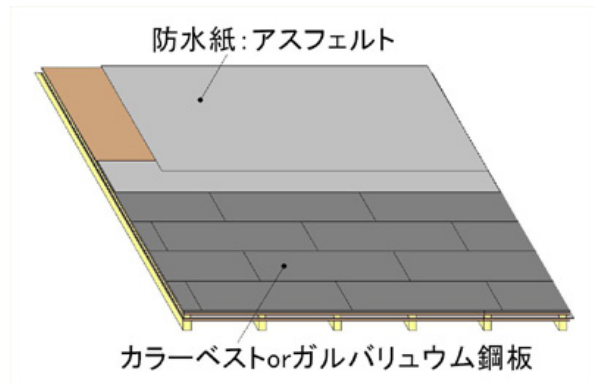


⑤アスファルトルーフィングを敷き仕上げ材を葺き完成です。

* ガルバリウム鋼板の場合も基本的な同じです。

* 結露対策として、木材は良く乾燥したものをお使いください。

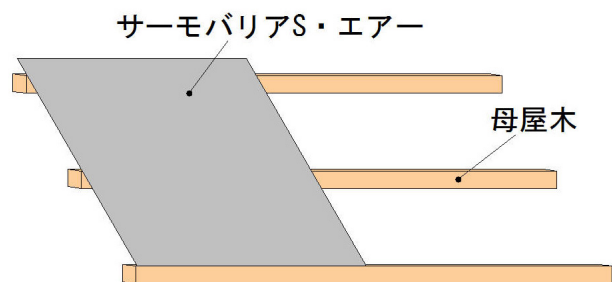
暖かく湿った空気が小屋裏にこもらないように換気口を設けてください。



【母屋上工法】

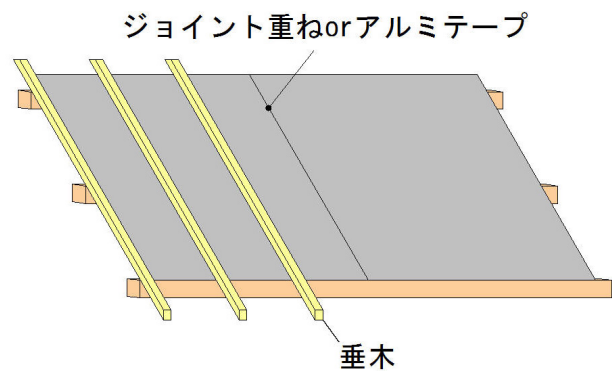
①母屋の上にサーモバリアを貼ります。
貼る向きは母屋に平行でも構いません。

* 発泡ウレタンをサーモバリアに吹き付ける場合は通気性のあるサーモバリアエアーをしてください。



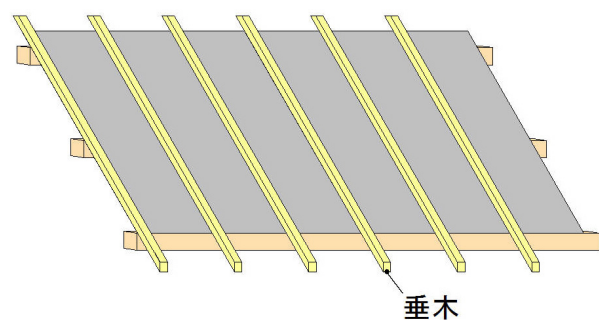
②サーモバリアの上から垂木を取付けます。
垂木で足場を確保しながら次のサーモバリアを貼っていきます。

* サーモバリア S もしくは W を使用する場合はジョイントを突きつけし専用アルミテープで貼り合わせてください。エアーの場合は 10cm ほど重ねてください。

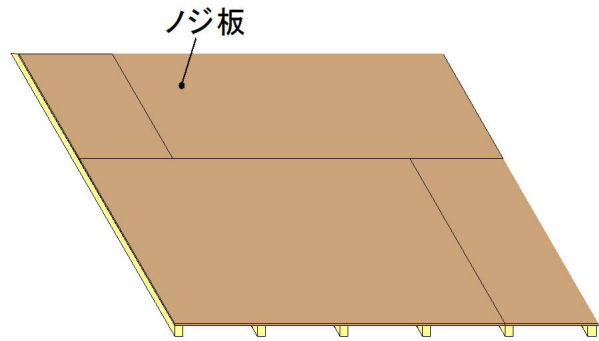


③屋根全面にサーモバリアを貼り、タルキを取付けます。

* 垂木の空間が反射空気層となります。

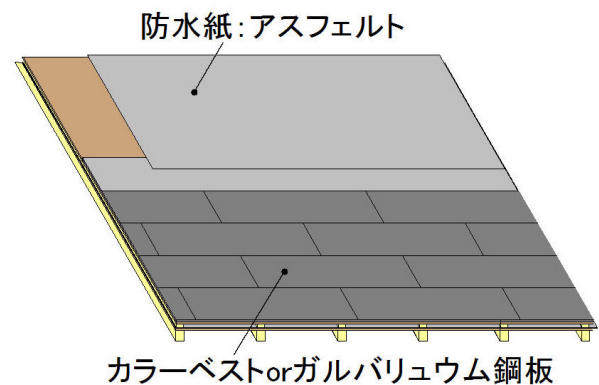


④垂木の上に野地板を取付けます。



⑤ルーフィングを敷き仕上げ材を葺き、完成です。
ガルバリウム鋼板の場合も同じです。

- * 結露対策として、木材は良く乾燥したものを
お使いください。
暖かく湿った空気が小屋裏にこもらないように
換気口を設けてください。



施工上の注意

- ・ 遮熱材サーモバリアは反射空気層が必ず必要です。
- ・ 現場での取付け時、太陽光がアルミに反射して眩しさを感じますので、サングラスなどの防護対策を施すことをお勧めします。
また UV カットの日焼け止めを肌の露出部分に塗られることお勧めします。
- ・ アルミ表面はその特性上滑りやすいので、必ず命綱などの落下防止策を施してください。母屋に直接貼る場合は踏み抜けないよう充分ご注意ください。

株式会社ライフテック

* 本マニュアルの無断転用を禁じます。